



第33回 福岡県 文化賞

Fukuoka Prefecture
Culture Awards 2025

贈呈式&記念イベント

2025
12/18 (木)
18:00 - 19:30
入場無料

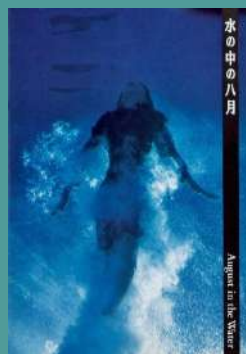
会場／大濠公園能楽堂

要事前申込み 申込受付期間 11月28日〔金〕まで

申込方法の詳細は裏面をご覧ください。※申込者多数の場合は抽選。



「箱男」(令和6年)



「水の中の八月」
(平成7年)



【創造部門】

いし
い
がくりゅう
石井 岳龍

映画監督

写真 /
© Nao Sugimoto



【社会部門】

むら
かみ さち
こ
村上 祥子

料理研究家／管理栄養士／
福岡女子大学客員教授

韓国梨花女子大学における
「日本のだし文化」の講義

写真 / © 株式会社コム 江口 拓



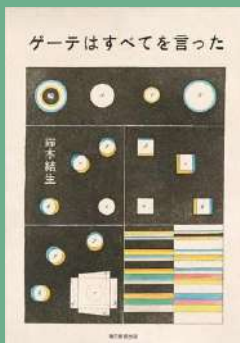
【奨励部門】

すず
き
ゆう
い
鈴木 結生

小説家

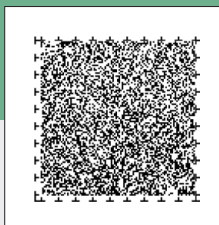
「ゲーテはすべてを言った」
第172回芥川龍之介賞
(令和7年)

写真 / © 朝日新聞出版写真映像部上田泰世



「携帯遺産」
(令和7年)

音声コード／専用の読みとり
装置により、紙面内容の音声
出力ができます。



【主催】福岡県、
ふくおか県芸術文化祭実行委員会



Fukuoka Prefecture Culture Awards 2025

福岡県文化賞 受賞者

本賞は県民の幅広い文化活動を促進し、本県文化の向上・発展を図るため、芸術文化、地域文化、伝統文化、生活文化など様々な視点から県民の文化活動を多角的にとらえ、文化の振興に顕著な功績のあった個人や団体を表彰し、今後の活動を奨励するものです。



【創造部門】

いし い がく りゅう

石井 岳龍

映画監督

昭和51年日本大学芸術学部入学直後に8mm映画デビュー作「高校大パニック」で注目され、「狂い咲きサンダーロード」(昭和55年)でインディーズ界の旗手となる。その後、「逆噴射家族」(昭和59年)で第8回サルソ国際映画祭(イタリア)でグランプリ。「エンジェル・ダスト」(平成6年)でバーミング国際映画祭(イギリス)でグランプリ受賞するなど国際的にも高い評価を受ける。

全編福岡口ケの「水の中の八月」(平成7年)でも高い評価を得、福岡の小説家である夢野久作の小説を映画化した「ユメノ銀河」(平成9年)では、ベルリン国際映画祭パノラマ部門に招待、同作品でオスロ南国際映画祭グランプリを受賞した。

平成22年に岳龍に改名。「生きてるものはいないのか」(平成24年)、「シャニダールの花」(平成25年)など話題作を発表している。

平成18年から令和5年まで神戸芸術工科大学で教授として教鞭をとり、自身の映画創作術をもとに、広く学生や映画にかかわる人材育成にも取り組む。

小説家安部公房本人より直接映画化を託された「箱男」(令和6年)は、第74回ベルリン国際映画祭に招待。また、同作品が評価され令和6年度(第75回)芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。



【社会部門】

むら かみ さち こ

村上 祥子

料理研究家 / 管理栄養士 /
福岡女子大学客員教授

昭和39年福岡県立福岡女子大学家政学部卒業。その後、結婚し東京都杉並区に転居。昭和44年、ニューヨーク生まれの知人におせち料理をお裾分けしたことから、日本人と結婚している海外出身の女性12人を対象に「アンさんの料理教室」をスタート。

昭和48年、アメリカ・カリフォルニアアーモンド料理コンテストで優勝。これを契機にメディアデビュー。ラジオ、テレビ、月刊誌、単行本の仕事を続ける。現在、単行本は600冊、出版部数1,300万部を超える。

昭和55年、夫、村上啓助の転勤に伴い、北九州市に転居。昭和60年より、福岡女子大学の非常勤講師を務め、病態栄養指導実習講座を担当。糖尿病患者が自宅でする治療食の開発に努め、油控えめでも1人分でも、短時間でおいしく調理できる電子レンジに着目。以来、研鑽を重ね、電子レンジ調理の第一人者になる。糖尿病予防、改善のために開発したマイクロ波調理が、文科省の第三次食育事業「早寝・早起き・朝ごはん」で着目され、福岡市内の夏休み中の小学校に電子レンジを持参し、「ちゃんと食べてちゃんと生きる一食べカ®をつける」講習に励む。

その他、1日1品の簡単レシピを紹介する連載「村上祥子のきょうの一品」(西日本新聞社)、日本型食生活を子どものうちから身につけるための3歳児のミニシェフ・クラブなど九州・福岡の地に深く根差し、食と健康について発信し続けている。



【奨励部門】

すず き ゆう い

鈴木 結生

小説家

平成13年福岡市生まれ。福島県郡山市で育つ。福岡県立修猷館高等学校卒業。西南学院大学外国語学部卒業、西南学院大学大学院外国語学研究科(英文学専攻)在学中。

西南学院大学在学中の令和6年、小説「人にはどれほどの本がいるか」で第10回林芙美子文学賞佳作を受けてデビューする。同大学大学院在学中の令和7年、小説『ゲートはすべてを言った』で第172回芥川龍之介賞受賞。21世紀生まれとして初の芥川賞受賞者として話題を呼ぶ。その他、「携帯遺産」(令和7年)、「世界文学物尽」(令和7年)、「エル・ニモ」(令和7年)などの作品を発表。

さらに、エッセイ「私にはどれほどの本がいるか」(『文藝界』2024年7月号)、「すばらしいスモール・ワールド」(『群像』2024年12月号)、「三人のO・K」(『朝日新聞』2025年1月24日朝刊)、「信仰と創作」(『文藝界』2025年3月号)、「私らが文学をする理由」(『新潮』2025年6月号)など、英文学の研究をするかたわら活発な創作活動を行っている。



贈呈式 & 記念イベント

受賞者トークイベント — 創る楽しみ方

【日時】2025年12月18日【木】18:00~19:30

【会場】大濠公園能楽堂 要事前申込み／入場無料

記念イベントでは、第31回福岡県文化賞を受賞した坂口貴信氏による祝舞と、大井実氏のナビゲートで、トークイベントを行います。受賞者に作品や活動への思いを語っていただきます。



【祝舞】坂口 貴信

能楽師 観世流シテ方
観世宗家所属

昭和51年生まれ。福岡県福岡市出身。坂口信男の長男。昭和53年「鞍馬天狗 花見」にて初舞台。東京藝術大学音楽学部邦楽科を卒業。在学中に安宅賞を受賞。平成14年二十六世観世宗家観世清和に内弟子入門。平成22年独立。坂口松風会を主宰。MUGEN∞能 同人。東京藝術大学非常勤講師。国立劇場養成事業講師。重要無形文化財総合指定保持者。第31回福岡県文化賞創造部門受賞。

【記念トークナビゲーター】

大井 実

有限会社ブックスキューブリック代表
BOOKUOKA 実行委員会委員長

福岡市内でブックスキューブリックを運営。トークイベントや展覧会を次々に開催し、本や著者の魅力を県民に伝える。BOOKUOKA実行委員会は、第25回福岡県文化賞社会部門及び第47回サントリー地域文化賞を受賞。

主催：福岡県、ふくおか県芸術文化祭実行委員会
お問合せ：福岡県文化振興課 文化賞担当
TEL / 092-643-3382 Email / bunshin@pref.fukuoka.lg.jp



贈呈式 & 記念イベント申込方法

【申込受付期間】11月28日【金】まで

インターネット(福岡県電子申請)、はがき、Eメールよりお申込みください。申込者多数の場合は、申込受付期間終了後に抽選を行います。抽選結果については、12月1日【月】以降に順次「抽選結果ハガキ」を送ります。

インターネット(福岡県電子申請)

二次元コードまたはURLよりお申込みください。

<https://shinsei.pref.fukuoka.lg.jp/SksJuminWeb/EntryForm?id=pT069ha2>



Eメール / はがき

●郵便番号 ●住所 ●氏名 ●電話番号 ●応募人数 ●車いす利用者の有無(有の場合は人数) 及び「福岡県文化賞記念イベント参加希望」と明記の上、お申込みください。＊11月28日【金】必着

【宛先】〒812-8577 (郵便番号のみ、住所は不要)

福岡県文化振興課文化賞担当

【E-mail】bunshin@pref.fukuoka.lg.jp

会場



大濠公園能楽堂

福岡県福岡市中央区大濠公園1番5号

交通アクセス

- 地下鉄/大濠公園駅より徒歩7分
- 西鉄バス/大濠公園バス停より徒歩3分、黒門バス停から徒歩3分